

クロックアップ・サイリックス旗揚げ公演上演台本

# 時々王

作・演出 川原 武浩

登場王様

王様王もしくははジョン王

濱崎 留衣

對抗王もしくははジョン王

大利真貴子

中道王もしくははジョン王

池田 晃子

傀儡王もしくははジョン王

森久 智江

独特王もしくははジョン王

上瀧 昭吾

従者もしくははヒューバート・ド・バーク

長岡 暢陵

0 冬

三日月の、弱々しい月明かり。

冬の冷たい空気があたりを包んでいる。

それは、凡庸な冬の夜の風景である。

やがて、月は雲間に隠れ、あたりはほんの一瞬だけ闇に包まれる。

風に雲が流れ、溶明。

木々の陰には、一人の王（王様王）の姿がある。

堂々たる絢爛豪華な装いに、まばゆいばかりに煌めきを放つ王冠。

そして、その容姿には不似合いな鍬を手に。

王は、剣を抜くかのように、その鍬を上段にゆっくりと振りかぶり、凍り

付いた大地に振り下ろす。

鍬と地面のぶつかる冷たい音だけが辺りに響く。

王、何かの気配にその手を止める。

その振り返った視線の先には、数人の人影。

人 1 (大きく)・・・何を？

王様王、視線を大地へと戻し、再び鍬を振り下ろす。

人 2 麦・・・ですか？

人 3 豆・・・ですか？

人 4 それとも、米を？

王様王 ・・・・

人 2 麦でしょう。

人 3 米は無理だろうし、麦というにはもう遅い。

人 4 豆にしては早すぎる。

人 2 だからって花なんて時代でも

人 1 ・・・・何を？

王様王 墓を。

王様王、もう一度大地に鍬を振り下ろす。

そして、静かに振り返り・・・

王様王 墓と、その吊いの花を。

静かな間。

人 1 ・・・・お悔やみを。

王、静かにその礼に応える。  
次の瞬間、王は地面を睨みすえたかと思うと、渾身の力で鍬を振り下ろす。  
鍬と地面のぶつかる音が、あたり一面に鋭く響く。

王様王  
・・・春になれば。

人達  
・・・。

王様王  
春になれば、この凍てついた大地も、やがてはその何者をも突き放すような頑  
なさを捨て、秋への希望の苗床となるだろう。頑なに、全てを寄せ付けぬ。ま  
るで傷ついた野の獣のようだ。春の日差しは、その傷を癒すように、あたたか  
く大地を包み、やわらかな目覚めへと導くだろう。

春には種も蒔けるだろう。夏ともなれば、緑豊かに眼に眩しく、やがて秋。実  
りの秋を目の前にして、我々はまた争い、豊かな実りは踏み荒らされ、そして  
冬。そしてまたこの大地は凍てつき、春。春、夏、そして冬。・・・春、夏、  
そして冬。

吊いを。誰の手にも刈り取られぬまま枯れ朽ちた、誇り高くも悲しい秋の。

音楽。

人 1  
王様王  
イングリッド王、ジョン・プランタジネット陛下でいらつしやいますな。  
・・・いかにも。

人影、無言のまま一斉に王に斬りかかる。

王様王、その太刀筋を、その手の鍬でしっかりと受け止める。  
全てが停止する。

と、土の中から従者が顔を出す。  
そして、それぞれの人物を配置する。

従者 お呼びでございますか、陛下。

停止していた時間が一斉に動き出す。

王全員 うむ、呼んだ。

王様王 喉が渴いた。水を持ってきてくれ。

従者 かしこまりました、陛下。

対抗王 私にも水を。

従者 かしこまりました、陛下。

中道王 同じくよろしく。

従者 かしこまりました、陛下。

傀儡王 (糸電話に耳をあてて) 私も水を。

従者 かしこまりました、陛下。

独特王 (長考) んー……、とりあえずビールね。

従者 かしこまりました、陛下。

王様王 遅い。

従者 申し訳ございません、陛下。

対抗王 遅い。

従者 申し訳ございません、陛下。

中道王 遅いんじゃない？

従者 申し訳ございません、陛下。

傀儡王 (糸電話に耳をあてて) 遅いって言ってます。

従者 申し訳ございません、陛下。

独特王 ビールは、あったら生で。

従者 かしこまりました、陛下。

王様王 (気が変わった) 水やめた。ダージリンを1杯頼む。

従者 はい、陛下。

対抗王 (対抗して) アッサムとダージリンのブレンドを2杯。

従者 はい、陛下。

中道王 (中道を行って) じゃあ、私はアッサム1にダージリン3のブレンドを1杯半。

従者 はい、陛下。

傀儡王 (糸電話を耳にあてて) 水のままで。

従者 はい、陛下。

独特王 (マイペースで) ジョッキも冷やしてね。

従者 はい、陛下。

王様王 小腹も空いてきた。

従者 それではなにかお食事を。

王様王 そうだな。サンドイッチを一切れ。チーズ2枚にハム1枚。バターとマスター

ドをたっぷりで。

従者 かしこまりました。

對抗王 サンドイッチ2切れ。チーズ4枚にハム2枚。バターとマスタードを溢れるくらいに。

従者 かしこまりました。

中道王 じゃあ、サンドイッチ1切れ半。チーズ3枚、ハム1、5枚で。バターとマスタードは溢れない程度にたっぷりと。

従者 かしこまりました。

傀儡王 (食べたそう) 水だけで。

従者 かしこまりました。

独特王 つまみは枝豆ね。

従者 かしこまりました。

傀儡王 やっぱり私も一切れ。

従者 かしこまりました。

傀儡王 でも、やっぱり駄目。

従者 かしこまりました。

傀儡王 でも食べたい。

従者 かしこまりました。

傀儡王 でも駄目なの。

従者 かしこまりました。

傀儡王 なんだこの二律背反は。食べたいのに、食べられない。(苦悩をにじませて) トウイート、オアノットトウイート。食うべきか、食わざるべきか、それが問題だ。

従者 そう悩まずとも、お召し上がりになればよろしいのでは？

傀儡王 そうだよね。私が食べたいんだから、食べるべきだよね。

従者 昔の人は言いました。「腹が減ったら何か食べ」と。

傀儡王 深い。なんて含蓄のある言葉だ。

従者 サンドイッチでよろしゅうございますか？

傀儡王 うん。ハムとタマゴとツナとキュウリとレタスにチキンとローストビーフ。マスタード・マヨネーズ・ケチャップをざっと混ぜたソースにびっしり粗挽き胡椒を振って。厚さ5ミリのブラウンプレッドを3枚使って。

王様王 ハムをローストチキンに変えてくれ。

對抗王 ハムをローストビーフに。

中道王 じゃあ、ハムをローストポークに。

独特王 焼豚と冷や奴もお願い。

傀儡王 飲み物はね、濃いめのアールグレイにジャージー牛乳をたっぷりいれて。

従者 かしこまりました。

傀儡王 (糸電話を耳にあてて)・・・でもやっぱり水だけ。

従者 陛下？

王様王 まだか。

従者 はい、ただいま。  
対抗王 遅い。  
中道王 のろま。  
王様王 愚図。  
対抗王 唐変木。  
中道王 役立たず  
王様王 ろくでなし。  
対抗王 無駄飯食い  
独特王 冷やしトマトね。  
従者 恐れ入りますが！！

間。

従者 恐れ入りますが、もう一度順番にお願いします。

王様達、一斉に注文。

王様王 ダーヂリンを1杯。サンドイッチを一切れ。チーズ2枚にローストチキン1枚。  
対抗王 バターとマスタードをたっぷり。  
アッサムとダーヂリンのブレンドを2杯にサンドイッチ2切れ。チーズ4枚に  
ローストビーフ2枚。バターとマスタードは溢れるくらいに。  
中道王 アッサム1にダーヂリン3のブレンドを1杯半。サンドイッチ1切れ半。チー  
ズ3枚、ローストポーク1、5枚で。バターとマスタードは溢れない程度にたっ  
ぷり。  
傀儡王 本当は具がたっぷりな黒パンのサンドイッチにジャージー乳たっぷりのアール  
グレイ。だけど、水。  
独特王 生ビールに枝豆、焼豚、冷奴、冷やしトマト。

一瞬の静寂。

王様達の視線が激しく交錯する。

王様王 ダーヂリンを1杯。サンドイッチを一切れ。チーズ2枚にローストチキン1枚。  
対抗王 バターとマスタードをたっぷり。  
アッサムとダーヂリンのブレンドを2杯にサンドイッチ2切れ。チーズ4枚に  
ローストビーフ2枚。バターとマスタードは溢れるくらいに。  
中道王 アッサム1にダーヂリン3のブレンドを1杯半。サンドイッチ1切れ半。チー  
ズ3枚、ローストポーク1、5枚で。バターとマスタードは溢れない程度にたっ  
ぷり。

傀儡王 本当は具がたっぷりの黒パンのサンドイッチにジャージー乳たっぷりのアール  
グレイ。だけど、水。

独特王 生ビールに枝豆、焼豚、冷奴、冷やしトマト。  
従者 (。パニック) うわあああああ。

従者、パニックを起こしてそのへんをグルグル回る。  
従者、突然はっと立ち止まって・・・

従者 失礼しまーす！！ (奇声) あちよー！！

従者、王様王の鳩尾に一発。

王様王 ぐふっ！！ (1回転して倒れる)

従者 (奇声) カチョー！！

従者、對抗王の鳩尾に一発。

對抗王 げぼっ！！ (8回転して倒れる)

従者 (奇声) ブチョー！！

従者、中道王の鳩尾に一発。

中道王 うがっ！！ 1、2、3、4、5 (4回転半して倒れる)

従者 (奇声) シャチョー！！

従者、傀儡王の鳩尾に一発。

傀儡王 (糸電話に話す)・・・あの、倒れていいでしょうか？ (糸電話を耳にあてて)

ぐふっ！！

従者 (奇声) ミヤコチョーチョー！！

従者、独特王の鳩尾に一発。

独特王 (変な擬音を発して倒れる) びによんっ！！！！

従者、我にかえて・・・

従者 わあっっ！！ やっちゃったやっちゃったやっちゃった！！

従者、あたりをグルグル回る。

従者、息切れ。

倒れている王様達をかきあつめて、順番に配置する。



従者 陛下、ご注文をどうぞ。

王様達、順番に注文する。

王様王 紅茶とサンドイッチ。

對抗王 紅茶とサンドイッチ。

中道王 紅茶とサンドイッチ。

傀儡王 紅茶とサンドイッチにしたいけど、水。

独特王 酒とつまみ。

従者 かしこまりました、陛下。

王様王 それから。

従者 はい、陛下？

王様王 ぬるいかき氷を。

従者 え？

對抗王 熱いかき氷。

従者 はい？

中道王 暖かいかき氷。

従者 わ。

傀儡王 かき氷、氷ぬきで。

従者 ひゃ。

独特王 冷たい熱燗。

従者 みゃ。

王様王 クリームパン、クリーム無しで。

對抗王 チョコパン、チョコ抜き。

中道王 二色パン、二色抜き。

傀儡王 食パン食抜き。

独特王 山崎パン山崎入りで。

従者 あ、あの、恐れ入りますが！！

王様達、止まらない。

王様王 きつね入りきつねうどん。

對抗王 たぬき入りタヌキうどん。

中道王 山かけうどん、阿蘇山がけ。

傀儡王 具入り素うどん。

独特王 親子丼、茂雄と一茂入りで。

従者 へ、陛下？

王様王 きつねうどん、キツネ2匹で。

對抗王 たぬきうどん、タヌキ4匹。

中道王 山かけうどん、富士山で。  
傀儡王 具入り麺なし素うどん。  
独特王 親子丼、美奈も追加。  
王様王 甘くないコーラ。  
對抗王 辛いコーラ。  
中道王 甘辛いコーラ。  
傀儡王 コーラみたいな水。  
独特王 ジョルトコーラ。  
従者 恐れ入りますが!!!

間。

従者 ……いじめでしょうか。  
王様達 ?  
従者 それともこれは試練なのでしょうか、陛下。

王様達、聞こえないふり。

従者 そもそもこれはなんなのでしょう。おかしいとは思われませんか、陛下。

王様達、聞こえないふり。

従者 たまには無理なご注文もよろしいでしょう。王という地位の重庄もわかります。陛下がお望みなら、暖かいかき氷でも、キツネ入りキツネうどんでも、なんとかしてお持ちしましょう。しかしです、そんなことはどうでもいいんです。私が申し上げたいのは、この状況はいつたいなんなのかということ。つまり……どうして王様が何人もいらつしゃるのでしょうか。普通、王様というものは、一国につき一人……  
王様達 わーっっっ!!!

王様達、その言葉を大声で遮りつつ、一斉に従者に飛びかかる。  
王様達、従者をまるめこんで胴上げしたりする。

王様達 (誤魔化して) ばんざーい、ばんざーい、ばんざーい!!!  
王様王 おめでどう。  
従者 ?  
對抗王 おめでどう。  
従者 ??  
中道王 万歳っ!!!  
従者 ????

傀儡王 おめでとうございます。  
独特王 それではお手を拝借。よー、よよいよよいよよいよい、  
王様達 あ、めでてえな。わー。

王様達、一斉に解散。  
従者と眼を合わせようとしなさい。

従者 (釈然とせずに) 陛下！！

王様達、卑屈に振り返る。

王様王 今、お前はとても恐ろしいことを言おうとしたぞ。

王様達、一斉にうなづく。

従者 普通、王様は一国につき一人だけですっつ！！  
王様達 きゃー。

王様達、顔面蒼白。

王様王 べ、べ、別に、何人いたっていいじゃないか。  
従者 よくないと思います。

王様王 世の中には一夫多妻制の国だってあるんだ。同じ理屈で考えれば、一国に王様が何人居ても

従者 いいわけではないでしょう。

王様王 首相と大統領が居る国だってあるだろう。

对抗王 首相と大統領と書記長。

中道王 社長と会長

傀儡王 天皇と親王。

独特王 さくらと一郎。

従者 陛下！！

王様王 まけてくれ。

従者 そういう問題じゃない。

对抗王 見逃して。

従者 だから。

中道王 見なかったことに。

従者 できません。

傀儡王 今回だけは。

従者 ですから。

独特王 (賄賂を握らせて) これでなんとか。

従者 (投げ捨てて) なりません!!!!

王様王 私の国だぞ。その王たる私が言うんだ。いいといたらいい。

従者 恐れながら陛下

王様王 わかった。じゃあ、こういうことでどうだ。全員、王の種類が違うというのは種類？

従者 例えば私はクイズ王。

王様王 マンガ王。

対抗王 ラーメン王。

中道王 鉄道王。

傀儡王 ペーパークラフト王。

独特王 (つぶやき) どの番組だ、うちの国は。

従者 テレビチャンピオ

王様王 言うなー!!! わかった。わかりました。納得はできませんが、理解はしまし

た。我が国には種類別に王がたくさん居ます。ありえませんが、そういうことにしましょう。とりあえず、それはそれでいいでしょう。

・・・それでは、陛下におうかがい申し上げます。・・・一番偉い王はどなたでしょうか。

王様達 (各々自分を指して) 私。

一瞬の静寂。

王様達の視線が再び激しく交錯する。

王様達 私。

王様達、互いを牽制しながら、ジリジリと間をつめる。

王様王 (醒めた笑い) はっはっは。

対抗王 はっはっはっは。

中道王 はっはっはっは。

傀儡王 (大根役者) あっはっはっは。(糸電話に) こんな感じでいいでしょうか。

独特王 ひよっひよっひよっひよっ。

王様達の距離が限りなくゼロに近付く。

従者 もう一度おうかがい申し上げます。一番偉い王は・・・

王様達 私だ。

間。

王様達 (冷たい笑い) はっはっはっはっはっ。

王様王 (對抗王の口を引っ張って) この口か。恐ろしくもずうずうしい言葉を吐いたのはこの口か。

對抗王 (中道王の口を引っ張って) この口か、恐ろしくもずうずうしく禍々しい言葉をついたのはこの口か。

中道王 (傀儡王の口を引っ張って) この口か、恐ろしくもずうずうしく、やや禍々しい言葉を吐いたのはこの口か。

傀儡王 痛い痛い痛い。

傀儡王、糸電話に耳をあてる。

傀儡王 (独特王の口を引っ張って) この口か、人の眼もはばかり、恐ろしくも凶々しく禍々しい言葉を紡いだしたのはこの口か。

独特王 (王様王の口を引っ張って) 一旦ついてしまった歯石は歯医者さんでないと落とせません。普段からのプラークコントロールを心がけましょう。

王様達、その手に力を込める。

王様達 いたいいたいいたい。

王様達、引っ張りの力で回転し始める。

王様達 いででででででつっ!!!

王様達、遠心力でバラバラになる。  
音楽。

従者 繰り返す季節と、繰り返す言葉と、それにいったい何の意味があるのか、わからないまま、もう一度同じ季節と同じ言葉を繰り返す。もう幾度目の春でしょうか。陛下。今年は、何を植えましょう。

王様王 麦を。

従者 陛下。

對抗王 米を。

従者 陛下。

中道王 豆を。

従者 陛下。

傀儡王 何も。

従者 陛下。

独特王 花を。

王様王 麦がいいだろう。今年の夏は暑くなりそうだ。夏の日差しさえあれば、秋には豊かな実りが約束されている。

對抗王 手間はかかるが暑くなるなら米もいいだろう。同じ土地に蒔くのなら秋の実りは麦より多い。

中道王 豆がよかろう。豆なら多少の暑さ寒さにもへたらず、ねばり強く夏を越え、秋には実りを差し出すだろう。

傀儡王 何もいらぬ。どうせ、秋には。

独特王 花にしよう。我が国は全ての民を養うには狭すぎる。花を売って、米や麦や豆を買うのだ。

王様達、同時に。

王様王 麦がいいだろう。今年の夏は暑くなりそうだ。夏の日差しさえあれば、秋には豊かな実りが約束されている。

對抗王 手間はかかるが暑くなるなら米もいいだろう。同じ土地に蒔くのなら秋の実りは麦より多い。

中道王 豆がよかろう。豆なら多少の暑さ寒さにもへたらず、ねばり強く夏を越え、秋には実りを差し出すだろう。

傀儡王 何もいらぬ。どうせ、秋には。

独特王 花にしよう。我が国は全ての民を養うには狭すぎる。花を売って、米や麦や豆を買うのだ。

従者 ……かしこまりました、陛下。

従者、ひたすらにあたりを耕し、種を蒔く。

その姿はいずれ来る破綻を予感するようどこかもの悲しい。

(シーン1終了)

2 夏

従者が辺りを耕すほどに時が流れていく。

王様王以外の全ての王はそれぞれの玉座で出番を待つ。

王様王と従者だけが残される。

王様王 どうだ、育ち具合は？

従者 上々です。

王様王 そうか。

従者 陛下の仰ったとおり、今年の夏は暑さがこたえます。雨もほどほどに降っていいますし、この分でいけば、秋にはずっしりと重い実を付けるでしょう。

王様王、従者をじっと見つめている。

従者 何か？

王様王 いや。

従者 そうですか。

従者、仕事に戻る。

その後ろを等間隔を保ちながらついていく王様王。

従者 あの、何か？

王様王 いや、何でも。

従者、再び仕事に戻る。

今度は従者の視界に入るあたりをちよろちよろとする王様王。

従者と王様王、目で会話。(従者「何か？」 王様「何でもない」)

従者、三度仕事に戻る。

王様王、仕事中の従者にちよっかいを出す。

従者 陛下！

王様王 ……あのさ。

従者 はい。

王様王 どうかな。

従者 何がでございましょう？

王様王 ……

従者 麦でしたら、順調に

王様王 それは聞いた。さっき聞いた。

従者 はあ。では？

王様王 だからさ、どう思う。

従者　　ですから何が？  
王様王　　気のきかん奴だ。  
従者　　申し訳ございません、陛下。  
王様王　　あー、つまり、なんだ、私のことをどう思う。

従者、唐突な質問に一瞬驚く。

従者　　敬愛申し上げております、陛下。

王様王　　本当に？

従者　　社交辞令です。

王様王　　お前、打ち首。

従者　　冗談でございます。尊敬申し上げます、陛下。

王様王　　本当か？

従者　　お世辞です。

王様王　　お前、火あぶり。

従者　　冗談でございます。

王様王　　三度目はないからな。

従者　　正直に申し上げます、陛下。尊敬しているような卑下しているような、それでいてどこか敬愛しながらも軽蔑しているような、いわゆるひとつのそんな感じでございます。

王様王　　なんだ、そのどっちともつかないような表現は。

従者　　玉虫色というやつでございます。本心を申し上げますと火あぶりになりそうですので。

王様王　　お前、しばり首。

従者　　いったい何を気にしておいでなのですか。

王様王　　（本を取りだして）これだ。

従者　　（受け取って）なんですか、これは。

王様王　　読んでみる。

従者　　ふむふむ。ええっ！！　実はジョン王は、

王様王　　声に出して読むな！

従者　　いや、世界中の人々にこのことを伝えようと  
するな。

王様王　　（手紙をしたためる）姉さん、大変です。ジョン王は

従者　　書くな。

従者　　あ、もしもし、母さん？　元気がって？　元気だよ。ちゃんと野菜食べてるか  
って？　食べてる食べてる。ところでさ、聞いた？　ジョン王って

王様王　　やめろ。私の目の黒いところは、舞台上で手紙を読み上げる奴と説明臭い電話の  
話し方をする奴は生かしてはおかんど。

従者　　なんですか、これは。

王様王　　何に見える。



従者 台本ですかね、芝居の。

王様王 そうだ。しかも私が実名で登場してる。

従者 確かに。

王様王 お前も出てる。

従者 え、本当ですか。

王様王 もっと後ろの方だ。お前の出番は90ページ、第3幕の第2場だ。

従者 どこです？

王様王 ここ、書いてあるだろう。王ジョン、リチャード、ヒューバート登場って。

従者 あ、本当だ。

王様王 そして次は私のセリフだ。

「ヒューバート、この子を頼む。リチャード、腰をあげろ、いそいでテントへ  
駆けつけてくれ、母上が襲撃されている、捕らわれたかも知れぬ」

従者 で、一同退場。なんてことだ、私のセリフがない。

王様王 そんなことはどうでもいい。

従者 いや、どうでもよくない。これは重要なことですよ。大変だ。なんて事だ。(急いでページをめくって)ヒューバート、ヒューバート、あ、出てきた。よかった。ちゃんとセリフがある。

王様王 お前のセリフの有る無しなんて問題じゃない。問題はその内容だ。いいか、お前が登場した次のシーン、第3幕第3場だ。

「ここへきてくれ、ヒューバート。ああ、ヒューバート、お前には本当に世話になった。この五体のうちにあるおれの魂は、つねにお前を恩義の債権者と心得、お前の行為には利息をつけて返さねばと思っている。そしてわがよき友よ、お前が捧げてくれた忠誠の誓いはこの胸に生きておるぞ、大切にはぐくまれてな。さあ、手をくれ。実はお前に話があったのだが、それはいずれいい折をみつめてすることにしよう。俺はな、ヒューバート、どんなにお前を大事に思うか、恥ずかしくて口に出すのもためらわれるぐらいなのだ」

従者 「もったいないおことば、感謝します」

・・・なんてことだ、セリフが1行しかない。

王様王 いちいちガタガタ言うな、みっともない。続きだ。

「おお、我が心の友よ、感謝するのはまだ早い。いずれ感謝してもらおう日がくるだろうが、時の歩みがいかに遅くとも、おまえに好意をかける日は必ずくる。お前に話があったのだが、ま、それはよすことにしよう。このように太陽が天に輝き、この世の楽しみがいたるところに目につく誇らしい真昼間は、あまりにも浮き浮きし、あまりにもけばけばしくて、どうも話がしにくい。もしもいま、真夜中の鐘が、その鉄の舌と真鍮の口でもって、眠たげな、巨大な夜のしじまにその音を響かせているならば、もしもいま、我々のいるところが墓場であり、おまえが数知れぬ害悪に痛めつけられているならば、あるいはもし・・・

従者 (セリフを遮って) 陛下！ 陛下！！

王様王 なんだ、人のセリフの最中に。まだ続きがあるんだよ。

従者 長すぎます。私のセリフはたった一行しかないのに。陛下ばかりペラペラと気持ちよさそうに。

王様王 しようがないだろう、書いてあるんだから。

従者 それに意味が分かりません。結局何がいたいんでしょう。いきなり「おお、我が心の友よ」って、ジャイアンですか。すると私はのび太くんなんですか。

王様王 あたらずとも遠からずだ。

従者 つまり、なにかよからぬことを相談されているというか、押しつけられようとしてるわけなんでしょうか。

王様王 そうそう。その通り。

「あるいはもし、憂鬱というしかめっ面の精霊が、お前の血を重くよどませており、そのために、ふだんはそいつが血管じゅうをくすぐりながら駆けめぐり、笑いという阿呆にくだらぬ冗談を言わせ、目も頬も引きつらせるといふ、俺の意にもつとも反する気分を生み出すわけだが、そういう気分にならないでいるならば、あるいはもし、お前が目を使わずに俺を見、耳を用いずに俺の言葉を聞き、舌の力を用いずに答えることができるならば、つまり想像力のみによって、目や耳や舌の助けなしに心が通じ合うものならば、そうであれば、いかに真昼間が監視の目を光らせようと、俺は胸の思いをお前の胸に注ぎこむであろうが、だがよしておこう。とにかく俺はお前を愛している。また、お前も俺を愛してくれるものと信じている」

間。

従者、立ったまま眠っている。

従者、はっと気が付く。

従者

・・・あ、終わりましたか。すみません、ちょっと意識が遠のいていました。(出番待ち中の王様達や観客に) みなさん、終わりましたよー。はい、大変ながらくお待ちせしました。次はいよいよ私のセリフです。

「もちろんです、敬愛する陛下のご命令とあらば、たとえそのためにこの一命を失うことになりましようとも、必ず果たしてごらんにいれます」

って、もう終わりか!! なんだよこの分かり易いセリフは。レトリックとかメタファーとか、そういういかにもなセリフは無いのか。

さつきよりは長いだろう、いちいち文句を言うな。いいか、ここからが大事なところなんだ。茶々をいれずにちゃんとやってくれ。

従者

はあ。

王様王 お前のセリフからもう一回。

従者

「もちろんです、敬愛する陛下のご命令とあらば、たとえそのためにこの一命を失うことになりましようとも、必ず果たしてごらんにいれます」

王様王

「うむ、わかっておる。ヒューバート、ヒューバート、ヒューバート、その目をむこうにいる子供に向けてくれ。友人であるお前にうちあけてしまおう。やつこそは俺の行く手ををさまたげる毒蛇なのだ。俺がどこにこの足を踏みだそう

と、やつがその足もとにわだかまるのだ、わかるか？ おまえはやつのお守り役

従者 「しつかり守ります。けっして陛下の邪魔はさせません」

王様王 「死だ」

従者 「え？」

王様王 「墓だ」

従者 「生かしてはおきません」

王様王 「よし」

従者 エー！っ！？

王様王 な。

従者 悪役ですか、私。

王様王 悪役なんだよ、お前も私も。

従者 なんかくわからないんですけど、誰を殺すんですか。

王様王 私の兄貴の子供。アーサーっていうんだけど。

従者 要するに陛下の甥子さんですか。

王様王 そうなんだよ。

従者 殺したいんですか？

王様王 とんでもない。勝手に書いてあるんだよ、この台本に。

従者 私、殺しちゃうんですか？

王様王 いや、私は殺せて命令したんだけど、結局お前が情けをかけて殺さないの。

従者 良かった。悪役脱出。

王様王 でもアーサーは死んじゃうんだよ。

従者 どうしてですか。

王様王 城から逃げ出そうとして城壁から飛び降りちゃうの。

従者 で、死んじゃうんですか？

王様王 「高い城壁だな、でもここから飛び降りよう。大地よ、かわいそうに思っ僕

を怪我させないでくれ」って言ってぴょんと。

従者 馬鹿ですか。

王様王 馬鹿だろう。普通高いところから飛び降りたら怪我は確実、下手すりゃ死ぬさ。

それが「高い城壁だな、でもここから飛び降りよう」ぴょん。これは私の責任か？

従者 （首を横に振って）いや、それは飛び降りる方にもいくばくかの責任があるように思います。

王様王 いくばくじゃないよ、ウチの城壁20メートルもあるんだぞ。そこから飛び降りようなんて、普通じゃ絶対考えないぞ。しかも地面は石畳だ。なにをどうやっ

たって無傷で下まで降りられるわけがないだろう。  
そりゃそうですね。でもなんで逃げ出そうとしたんですか。  
王様王 そこまでの話をかいつまむとこんな感じだ。

待機中の王様達、出動。

王様達による三文芝居が始まる。

中道王 私はジョン王。

傀儡王 私はヒューバート。

對抗王 僕、アーサー。

独特王 私、城壁。

中道王 ヒューバート、俺はお前が好きだ。

傀儡王 陛下、私も陛下を愛しております。

中道王 だったらあいつ殺して。

傀儡王 かしこまりました陛下。坊ちゃん、悪いけど死んで。

對抗王 やだ。

傀儡王 うおりゃー、カキーン。(剣が城壁にあたる)

独特王 パラパラパラ。

傀儡王 カキーン。(剣が城壁にあたる)

独特王 パラパラパラ。

傀儡王 カキーン。(剣が城壁にあたる)

独特王 パラパラパラ。

對抗王 (追いつめられて) わー、許して。

傀儡王 許す。でも秘密だよ。(ジョン王に) 殺してきました。

中道王 なんで殺したんだ。

傀儡王 だって、陛下が殺せて。

中道王 言っていない。

傀儡王 言った。

中道王 言っていない。

傀儡王 言った。

中道王 何時何分何十秒地球が何回回った時に言ったんだよ。

傀儡王 陛下！

中道王 だって、お前が駄目だって言わなかったから。

傀儡王 駄目って言ったなら怒るでしょう。(目の前に命令書をつきだして) それにほら、

命令書にもサインが。

中道王 げっ。(奪い取って食う) むしゃむしゃむしゃ。お前が勝手にやったことだ。

傀儡王 陛下！

貴族どもが怒ってるんだ。なんで殺したんだって。お前のせいだからな。お前が全部やったんだからな。俺は殺せなんて一言も言ってないからな。やーい、やーい人殺し。

傀儡王 陛下、実は殺してません。

中道王 なにっ！ 偉い！ 急いで怒ってる連中に教えてくれ。

傀儡王 かしこまりました陛下。

對抗王 (城壁によじ登って) びよん。わー、ぐしゃ。

王様達、横一列に並んで一礼し、定位置に戻る。

王様王 どうだ？ どう思う。悪い奴は誰だ。

従者 これは、運命のイタズラという名のご都合主義。はいっ！！ 作者が悪いと思います。

王様王 そうだろう。私のせいじゃないよな。

従者 でもそれ以上に陛下も悪いと思います。何が悪いって、自分のしたことを全て私になすりつけようとする、その無責任な性格が。

王様王 なあ、私はこんな風に書かれてしまうほど評判悪いのか？

従者 ……。

王様王 私は、はたからみるとこんな風なのか？

従者 ……正直に申し上げます。世間では陛下の事を「失地王」「欠地王」「無地王」「篡奪王」「破門王」「史上最底のイングランド王」などと呼びならわし、嘲っております。

王様王 ……やっぱり。なんかおかしいと思ってたんだ。私は要するに林家こぶ平なんだよ。そうなんだ、こぶ平なんだ。

従者 おっしゃる意味がよくわかりませんが。

王様王 だって、2代目とか3代目とかがないじゃないか。リチャードだって、2世とか3世とかいるのに。ヘンリーなんて8世までいるんだよ。いないじゃないか、2代目・林家こぶ平とか。

従者 絶対にありえませぬね。

王様王 要するに認められてないんだよ。リア王と私だけ。リアはいいよ。どうせ架空の人物でしかもキチガイじゃないか。しかもそのキチガイのおかげで有名じゃないか。それに比べて私は何だ。ジョン。ジョンだって。だいたいこんなの王様の名前じゃないよ。ジョンとかペスとか犬の名前じゃないか。ポチとかタマとかと一緒にじゃないか。ああ、我が名はジョン。畜生やこぶ平と同レベル。

従者 そこまでご自分を貶められなくとも。

王様王 くそう、どうしてくれよう。この汚名をそそぐ何かいい方法はないか。

従者 そうですねえ。

考え込む王様王と従者。

王様王 ……そうだ、処刑だ。私に対して否定的な奴を全て処刑する。

出番待ちの王様達、意志決定の場面に急ぎ出動。

對抗王 いや、私に対して肯定的でない奴を全て処刑する。

中道王 私に対して否定的な奴は全員処刑。どちらともいえない奴は半分処刑。

傀儡王 何かいいことをして、世間をみかえす。

独特王 ジョニーに改名する。

従者 どれもなかなか遠い道のりのような気がします。  
王様王 どれが一番楽だろうか。

従者 おそれながら、お三方のご意見を採用いたしますと、我がイングランドの人口はよくて半分以下、ひよっとすると限りなくゼロに近くなってしまいかもしれません。

王様王# そんなに嫌われているのか、私は。

対抗王# そんなに嫌われているのか、私は。

中道王# そんなに嫌われているのか、私は。

従者 それから、改名するというのは根本的な解決になってません。失地王ジョンが失地王ジョニーに変わるだけです。

独特王 そうかなあ。多分画数が悪いせいじゃないかと思うんだけど。

従者 何かいいことをして、世間をみかえす。これはいいように思います。

傀儡王 だろ。結構いけると思うんだよ。なんせこれまでの評判が評判だからさ。ちょっといいことしただけでも、みんなびつくりすると思うんだよ。

従者 その通りです、陛下。「あいつ、ワルだと思ってたけど、実は結構いいやつじゃん」 そう思わせればこっちのもんです。何かありませんか、そういう心温まるエピソードは。

王様達、しばらく考え込み、一斉にかぶりを振る。

王様王 ない。

対抗王 全然ない。

中道王 ほとんどない。

傀儡王 なさそう。

独特王 ありそうでない。

王様王 あ、火あぶりを縛り首に変更してやったことならある。

従者 それはあまり大差ない気が。

王様王 そうか？ 縛り首の方が、火あぶりより楽だろう。

従者 まあ、そうかもしれないませんが、結局死刑じゃないですか。もっと慈悲の心が垣間見えるような、そんなやつですよ。

王様王 ないなあ。

従者 なければないで、これからなさればよいのです。

王様王 そうだな。では、朝はちゃんと9時までには起きることにしよう。

対抗王 私は8時に。

中道王 8時半。

傀儡王 じゃあ、私も8時半（糸電話から指令）・・・いいえ、6時です。6時に起きます。

独特王 早起きだけは勘弁。

従者 早起きは、特ににいいことってわけじゃないと思うのですが。

王様王 早起き王ジョン。結構いい響きじゃないか。

對抗王 健康的だ。  
中道王 すがすがしい。  
傀儡王 いいんじゃないかな。  
従者 そういったことではなくて、もつと何か。  
王様王 わかった。じゃあ、税を減らそう。一律3割減でどうだ。  
對抗王 じゃあ、4割減。  
中道王 3割5分。  
傀儡王 (糸電話から指令) 地域振興券100万円。  
独特王 お米券100キロ分。  
従者 やりすぎです、陛下。逆に気持ち悪いです。  
王様王 そうか？  
従者 怪しいです。あんまり気前がよすぎて、何か企んでる感じがします。  
王様王 (ニヤニヤ) そんなことはないぞー。  
對抗王 (ニヤニヤ) そうそう、大丈夫。  
中道王 (ニヤニヤ) かわりに来年増税したりなんか、絶対しないから。  
傀儡王 (ニヤニヤ) ホント、ホント。  
独特王 (ニヤニヤ) この目が嘘をついてる目に見えるか？  
従者 嘘臭いです、陛下。心から嘘臭いです。  
王様王 じゃあ、どうしろというんだ。  
従者 イメージ戦略です。こういう場合には、女・子供・動物絡みのエピソードと相場が決まっています。  
王様王 女・子供・動物ねえ。じゃあ、子供でいこうか。  
従者 じゃあ、湖で溺れかけた子供を、偶然通りかかった陛下が助けたことにしましょう。  
王様王 お、いいんじゃない。  
對抗王 女・子供同時ではどうだ。  
従者 じゃあ、湖で溺れかけた母と子供を助けたことに。  
對抗王 よしよし。いい感じだ。  
中道王 女・子供を時間差で。  
従者 じゃあ、湖で溺れかけた子供を助けてその10分後、続けざまに今度は母親を助けたことに。  
中道王 いいねえ。  
傀儡王 動物はどうかな。  
従者 じゃあ、湖で溺れかけた子馬を。  
傀儡王 基本は一緒なんだね。  
従者 すみません、想像力が貧困で。  
独特王 全部一緒にならないか？  
従者 ええと、じゃあ、突然暴れ出した馬に二人乗りしていた母子が、馬もろとも湖につっこんで、そこに偶然通りかかった陛下が溺れかけていた子供と母親と馬を……なんか無理がありませんか？

独特王　　そうか？　いい話じゃないか。  
従者　　どれにしましょうか。  
王様王　　・・・めんどくさいから、お前決めといてくれ。  
對抗王　　そうだな、どれでも大差ない。  
中道王　　結局溺れてるところを助けるんだろ。  
傀儡王　　誰が溺れてたのかって違いだけで。  
独特王　　私は2人と1匹を同時に助けるってやつが断然いいと思うんだが。

王様王、立ち上がってどこかへ行こうとする。  
それにつられて、他の王も動き始める。

従者　　陛下、どちらへ？  
王様王　　疲れた。もう今日は休む。  
従者　　おやすみなさいませ。  
對抗王　　非常に疲れた。もう寝る。  
従者　　おやすみなさいませ。  
中道王　　やや疲れた。部屋に戻って寝る。  
従者　　おやすみなさいませ。  
傀儡王　　私はまだ。(※電話から指令)　いいえ、やっぱり寝ます。  
従者　　おやすみなさいませ。  
独特王　　寝るから部屋まで運んでくれ。

独特王、その場で寝る。  
従者、独特王を引きずって玉座に戻す。

従者　　おやすみなさいませ。

王様達、それぞれの玉座で眠りにつく。  
従者、つかの間の安らぎ。

従者　　ふう。・・・どれにしようか。女、子供、馬、女、子供、馬。いやまてよ、馬を助けたところで、どうやってそれを証明するんだ。まず目撃者が必要だな。それから溺れる親子はどうしよう。それ以前に、陛下は泳げるのか？　人間はともかく、馬を助けるってのは大丈夫なんだろうか。ポニーぐらいにしないとの方がいいのかな。でもポニーに親子が二人乗りして湖につっこむってのは、絶対に無理があるぞ。設定変えなきゃな。子供がポニーに乗って遊んでいたら、棘を踏んだポニーが驚いて子供もろとも湖に突っ込む。で、それを見ていた母親が子供を助けようとあわてて湖に飛び込んで、泳いでいく途中で洋服が絡みついて溺れてしまう。こうだな。これでいいだろ。あとは偶然通りかかった陛下が、勇敢にも湖に飛び込み、2人と1匹を助ける。・・・無駄かな。やっぱり子供だけでもいい



ような気がするな。

従者、ふと辺りに目をやる。

その視線の先には眠りこける王様達の姿。

従者

(ため息)ふう。あと、なにをやらなきゃいけなかったっけ。・・・水争いに土地争い、訴訟も文句も山ほど届いてるし。「ウチの家のリンゴの木が大きくなつたので、垣根を越えて隣の庭に枝がはみ出しました。それをいいことに隣人はみ出した枝になったリンゴの実を盗むので困ります、百叩きにしてください」  
「ウチの隣の家のリンゴの木が垣根を越えてウチの庭まではみ出してきました。当然はみだしてきた枝になっているリンゴはウチのものだと思うのですが、隣人は私をドロボウ扱います。頭にくるので、百叩きにしてください」なんてケチくさい話だ。どっちも百叩き。・・・あ、ゴミ出しとかなきゃ。今日、ゴミの日だ。・・・国旗と国歌、そろそろ決めなきゃな。旗と歌。忘れないように手いところ。ゴミ袋、きつく縛つとかなないと、最近野良犬が食い散らかすんだよな。ぎゅーっと、きゅーく。縛る。・・・縛る？縛るといえば縄。縄といえば、沖縄。めんそーれ。違う、縄といえば・・・そうだよしぼり首だよ。忘れてた。今朝吊した奴、降ろすの忘れてた。やばいな、夏だしな。腐るの早いよな。匂うんだよな。係、呼び出すか。もう寝てるかな。こんな時間に起こして、いきなり腐った死体片づけろってのもかわいそうだよな。でも、あいつそれが仕事だしな。でも時間も遅いし、追加料金だよな。今月分の人件費って、まだ予算残ってたっけ。ああ、ゴミ出しに行かなきゃ。いやまで、なんか大事なことを忘れてないか。(手のひらを見て)なんだっけ、旗と歌って。大漁旗と兄弟船。兄弟船はくオヤジの形見いくと。じゃない、国旗と国歌か。あとあと、こういうどうでもいいのは。いいよ、国旗は大漁旗で国歌が兄弟船で。ああああ、思い出した、今年の税率決めなきゃいけなかったんだ。今年は豊作っぽいし、少し多めに取り立てても問題ないよな。でもなあ、みんな嫌な顔するんだよな。ドロボウみたいに言われるもんなあ。やっぱり去年と同じにしとこうかな。

従者、やる気なさげに顔をあげる。

周囲にはやっぱり眠りこけている王様達。

従者

・・・何で王様でもないのに、こんなこと決めなきゃいけないんだ。

間。

従者

王様でもないのに。

従者、黙考する。

静かな間。

やおら立ち上がり、そろりそろりと王様王の方へ近付く従者。  
従者、王様王の王冠を外す。  
無反応で眠りこける王様王。  
従者、次に対抗王の王冠を外す。  
同じく無反応な対抗王。  
と、中道王の目が開いている。

従者  
わっ！

しかし、中道王は無反応である。  
間。

中道王 (いびき) ぐー。  
従者 寝てるのかな、これは。  
中道王 (いびき) ごー。  
従者 寝てますよね。  
中道王 (いびき) ぐー。

従者、中道王の瞼のシャッターを降ろす。

従者  
ガラガラガラ、はい閉店です。

従者、中道王の王冠を外す。  
従者、傀儡王の方へ向かう。  
傀儡王、ナイスタイミングで寝返り。  
従者、外した傀儡王の王冠を落としそうになる。  
続いて従者は独特王の方へ。  
と、従者が独特王の前にきた瞬間、独特王が突然立ち上がる。

独特王 おのれ、くせ者。曲者じゃあ、ものども、であえであえ！！  
従者 わああああ、ごめんなさいごめんなさいごめんなさい！！  
独特王 はっ、お主は、桔梗屋。

独特王、座る。

独特王 (寝言) ううん、新右衛門、一休どのを呼べ。  
従者 なんだ、寝言か。

従者、独特王の王冠(烏帽子?)を外す。

従者　ふう。

従者、王様王以外の王冠をそのあたりに隠す。  
音楽。

従者、王様王の王冠をその頭上に戴く。  
ゆっくりと振り返る従者。

従者　誰か。誰かおらぬか。

その声に、元・王様達が飛んでくる。

王全員　お呼びでございましょうか、陛下。

従者　喉が渴いた。水をもってきてくれ。

王様王　かしこまりました、陛下。

従者　待て。気が変わった。ダージリンを一杯頼む。

対抗王　かしこまりました、陛下。

従者　いやまて、やはりビールだ。ぬるめのスタウトを。

中道王　かしこまりました、陛下。

従者　それから、サンドイッチを。

傀儡王　かしこまりました、陛下。

王様王　お待たせいたしました、陛下。

従者　水はもういらん。(独特王に)もっていけ。

独特王　かしこまりました、陛下。

対抗王　お待たせいたしました、陛下。

従者　それももういい。(王様王に)もっていけ。

王様王　かしこまりました、陛下。

中道王　お待たせしました、陛下。

従者　うむ。

傀儡王　お待たせしました、陛下。

従者　うむ。

従者、サンドイッチとビールを両手に満足そうな表情。

従者　いただきます。(口を開ける音)んが

独特王　お待ち下さい、陛下。

従者　なんだ。

独特王　失礼ながら、お毒味がまだでございます。

独特王、従者の手からサンドイッチとビールを取り上げる。

独特王　それでは、失礼して。

独特王、一気に全部食う。

従者　ああっ！！

独特王、一気に全部飲む。

従者　あああっ！！

独特王　（満足げに）プハー。・・・陛下、毒は入っておりませんでした。  
従者　・・・お前、打ち首。

独特王、對抗王と中道王に脇を固められ、隅の方へ連行される。

従者　もう一度もってこい。サンドイッチとビールだ。

王様王#　かしこまりました、陛下。

傀儡王#　かしこまりました、陛下。

中道王、對抗王、独特王、もどってくる。

對抗王　首をはねてまいりました。

従者　ご苦労。

中道王　これはかわりの毒味役でございます。

独特王　この度は私ごとをおとり立ていただき、誠にありがとうございました。陛下  
の御ために誠心誠意お尽くし申し上げる所存でございます。  
従者　顔が気に入らん。・・・打ち首。

独特王　陛下ーっ！

独特王、對抗王と中道王に脇を固められ、隅の方へ連行される。

對抗王　首をはねてまいりました。

従者　ご苦労。

中道王　これはかわりの毒味役でございます。

独特王、小細工で表情を変えている。

独特王　この度は私ごとをおとり立ていただき、誠にありがとうございました。陛下  
の御ために誠心誠意お尽くし申し上げる所存でございます。

従者　うむ。しっかりと果たせ。



王全員 お呼びでございましょうか、陛下。  
従者 わあ！  
王様王 そろそろ執務にはいつていただきませんか。  
従者 シツム？  
王様王 お仕事でございませぬ、陛下。  
従者 あ、ああ、執務ね。はいはい。  
王様王 まずはこちらの書類にサインを。  
従者 (サラサラとサインをして渡す) なんだ、これは。  
王様王 「罪人・ジョンネズビットを縛り首に処す」死刑執行の命令書でございませぬ。  
これを担当の係へ。

王様王から對抗王、中道王、傀儡王、独特王へバケツリレーのように命令書が運ばれていく。

従者 わあ。そういうことは早く言え。なし、いまのなし。返せ。  
王様王 駄目でございます。  
従者 よくみてなかつたんだよ。  
王様王 駄目なものは駄目でございます。  
従者 縛り首って、何したわけ、その人。  
王様王 さて、私には分かりかねます。(對抗王に) 詳しい内容は？  
對抗王 反逆罪ときいておりますが。私にもそれ以上は。(中道王に) わかるか？  
中道王 侮辱罪でございます。おそれ多くも市中で陛下に対しての讒言をふれまわったとか。詳しい内容までは存じ上げませんが。(傀儡王) どうなの？  
傀儡王 陛下の人形を十字架に磔にして、火あぶりにしたと聞いておりますが。(独特王) だよね。  
独特王 いいえ、城壁に陛下の顔を落書きした罪でございます。  
従者 全然違うじゃないか。なんでそれぐらいで死刑なんだ。  
独特王 あまりに似てなかつたもので。もう私、人ごとながら悔しくて悔しくて、こいつは殺さないかんバイって思うたのですよ。  
従者 やっぱり取り消し。  
王様王 駄目でございます、陛下。一度ご署名いただいた文書は、たとえ神であろうとそれを破ることはまかりませぬ。  
従者 うるさい、私は王だぞ。死刑は中止だ。  
王様王 わかりました。それではこちらの書類にサインを。  
従者 なんだこれは。  
王様王 死刑執行取り消し命令書でございませぬ。  
従者 いちいち面倒くさいな。  
王様王 決まりでございませぬ。

従者、サラサラとサインして王様王に渡す。

王様王 (受け取って) 確かに。

王様王から対抗王、中道王、傀儡王、独特王へバケツリレーのように命令書が運ばれていく。

対抗王 訴状が届いておりますが。

従者 内容は？

対抗王 「ウチの家のリンゴの木が大きくなったので」

従者 百叩き。

対抗王 かしこまりました。それではここにサインを。

従者 はいよ。

中道王 こちらにも訴状が。

従者 読み上げろ。

中道王 「ウチの隣の家のリンゴ」

従者 百叩き。

中道王 かしこまりました。それではここにサインを。

従者 ほれ。

独特王 (ゴミ袋をもってきて) ゴミを出してよろしいでしょうか。

従者 ゴミぐらい勝手にだしとけ。

独特王 いいえ、なりません。この城のものは、厨房の野菜クズから床につもった埃まで、全て陛下の持ち物でございます。私の一存で捨ててよいかどうか決められるものではございません。捨てていいのかどうか、どうぞ、おあらためくださいませ。

従者 わかったよ。(ざっとみて) いいよ、捨てて。

独特王 もっとじっくりと見ていただかないと。なんでしたら、こちらに全て広げましょうか。

従者 いいから捨てに行け。

独特王 かしこまりました。それではここにサインを。

従者 (サインしながら) 捨てる時は、しっかり縛れよ。

独特王 心得ております、陛下。

傀儡王 陛下、国旗と国歌の件はいかがいたしましたでしょうか。案としては、

対抗王 こういったもの(日の丸)と

中道王 こういったもの(王様の似顔絵)

傀儡王 の2つございますが。

従者 国歌は。

傀儡王 (指揮して) 1、2、3、はいっ。

対抗王 きいゝみいゝがあ(以下略)

傀儡王 以下略でございます、陛下。もう一曲はこちらです。1、2、3、はいっ。

中道王 (適当な歌) イングランド、イングランド、ヤッホー、ヤッホー。

傀儡王 どちらがよろしいでしょうか。

従者 大漁旗と兄弟船。

傀儡王 はっ？

従者 国旗が大漁旗。国歌は兄弟船。

傀儡王 ……かしこまりました、陛下。それではこちらとこちらにサインを。

傀儡王、どこからか大漁旗を仕入れてくる。

傀儡王 国旗掲揚つ。

厳粛な空気の中、大漁旗が掲揚される。

傀儡王 国歌斉唱。

一同 波つのお谷間にい命のお花あが、ふたつつく並んで、咲いているう。兄弟船は、オヤジの形あ見い(中略)

ばらばらと拍手。

傀儡王 (おべんちゃら) 素晴らしい。そこはかとな威厳に満ちた、我が国に相応しい国旗と国歌でございます。

従者 やっぱりやめた。

傀儡王 そうでしょう。第一、我が国と何の関係があるのかわからない。やめましょう。

従者 やっぱりこれでいいか。

傀儡王 素晴らしい。一見我が国と何の関係もなさそうところが、これまでの常識をうち破って、なんとも言えず素晴らしい。

従者 でもやっぱり変だな。また今度考えることにする。

傀儡王 かしこまりました、陛下。

王様王 陛下、今年の税の件ですが、いかがいたしましたでしょうか。昨年は直営地での労働が週2日、農民保有地からの貢納は収穫の20%でございました。今年も直営地での労働は週2日で行わせております。今年の貢納も昨年と同じでよろしいでしょうか。

従者 うむ、そうだな。それでいいだろう。

王様王 それでは、こちらにサインを。

と、サインしようとした従者、ペンを取り落とす。

従者、ペンを拾おうとするが……

王様王 なりませぬ。

従者 ？



王様王 拾ってはなりません、陛下。今すぐに人を呼びますので、そのままにしておいてください。

従者 いいよ、自分で拾うから。

王様王 なりませぬ！！

従者 何だ。自分で落としたペンを自分で拾うことのどこが悪い。

王様王 なりませぬ。

従者 どうしてだ。

王様王 どうしてもでございます。なりません、陛下。

従者 いいよ、もう。

従者、自分でペンを拾い上げる。

と、王様王はその従者の手を強く叩く。

再び床に転がるペン。

険悪な雰囲気があたりに広がる。

王様王 ご無礼を。

従者 何だ。

王様王 ……

従者、再びペンを自分で拾い上げる。

王様王、またしてもその手を叩き、ペンをたたき落とす。

王様王 ご無礼を。

従者 何だ！

従者、三度ペンを拾い上げようとする。

王様王、従者の手を床に踏みつけにする。

王様王 ご無礼を。

従者 何をするか、無礼者！！

王様王 (従者の手を踏みつけたまま) ご無礼の段、心よりお詫び申し上げます。

従者 痛ててて！！

王様王、その足にさらに力を込める。

従者 (他の元・王達に) 何をしている、この者を取り押さえろ！！

しかし周囲はその言葉に無反応である。

従者 (周囲に) どういうことだ。

王様王 ……王は、自らなにかを為してはなりませぬ。たとえそれが床に落とした。へんを拾うなどという、どんなに簡単なことだとしてもです。

従者 いったい何が言いたいんだ。

對抗王 やれやれ。

中道王 やっぱり駄目か。

独特王 これじゃあ任せられないね。

従者 なんなんだ、一体！！

傀儡王 やりたくてやってるわけでもないからね。王様なんて。せつかくかわってくれるって言うから、かわってあげたけど……君じゃ無理だよ。

王様王、その目に威厳を取り戻す。

王様王

物を落としても自分で拾ってはならぬ。自分でもできることならば、あえてそれを他人にさせ、それをその者の生業とさせよ。自らできぬことを他人に頼むな。

王は頼られることはあっても、決して何者をも頼ってはならぬ。嵐の広野に心を置き、その寂寥にもくじけることなく、王にしかできぬ仕事をせよ。

なにかほしい物があっても、自ら買いに出向いてはならぬ。必ず誰かを買いにやらせる。買ってきた物が、自分のほしい物と違っていても決して文句をいうな。それならば別の者に、もう一度買いにやらせる。そうしてお前の言うことを、もっともよく理解する者をお前の頼みとせよ。

王に決められることは、本当に大きっぱなことだけだ。衛兵が身に纏う軍服に、2シリングの布を使うか、5シリングの布を使うかまで決めたいというのなら、市井であり得ない夢を語るペテン師まがいの評論家にもなるがよい。

……そう私の父王は教えてくれた。

王は奔放ではない。ただの奴隷に過ぎぬ。そのことを知らぬ王に、どうして国が治められようか。王を名乗り、王のように生き、王のような形（なり）で、王のように振る舞うことはお前にもできるだろう。

しかしそれでは私の兄と同じだ。自らが自らの名誉のためだけに戦場へと赴き、本国に残された領民のことなどただの一度たりともかえりみることなく、ただ自らの名誉と欲望のために生きた、民無き獅子心王と同じだ。

篡奪者と言われようが、失地王と蔑まれようが構わぬ。ただ私はこの場所で、民を守り、民と共に生きたいと思った。それだけなのだ。

王様王、踏みつけにしていた従者の手を解放する。

王様王 （柔らかく）さあ、それはずせ。

静かな間。

従者

……かしこまりました、陛下。

従者、王冠を王様王のもとへ差し出す。  
それぞれの王も隠されていた王冠を探しだし、自らの頭にかぶる。

王様王　もう、秋が来る。いつものような争いの秋が。・・・下がっている。ここからは私にしかできぬ仕事だ。

秋を知らせる突然のつむじ風。  
その強い風に揺らぐこともなく、5人の王は、確かにそこに王として立ち続けている。

(シーン2終了)

3 秋

音楽。

空から、かなりいい加減なブリテン島・フランス地図が降りてくる。

傀儡王

視聴者のみなさんこんばんわ、今年も秋の特番、クイズ・キングオブキングスの時間がやってまいりました。今年も元気に限りある秋の実りを奪い合っていただきましよう。司会私、オレンジ公ウイリアムと、

従者

アシスタントのヒューバート・ド・バークです。

傀儡王

私も王のはずなのに、すっかり蚊帳の外。どういうことでしょうか。(糸電話に) どういうことなんでしょうか。(糸電話を耳にあてて) すみません。わかりました。ごめんなさい。

傀儡王、気を取り直してテンションを上げる。

傀儡王

さあ、今年の挑戦者はこの4名です。まずは赤の方、粗食と骨太女の国イングランドからお越しのジョン・プランタジネットさんです。

王様王

ハロー。

傀儡王

青の方、海を渡って反対側、飽食と美女の国フランスからお越しです。朝食はクロワッサンとオレンジジュース、ワインとバターが死ぬほど好きというフィリップさんです。

對抗王

ボンジュール。

傀儡王

白の方、イングランドとフランスに挟まれて大変です。土地はフランス政治はイングランド、中立都市アンジェから、アンジェ伯です。

中道王

ハロジュール。

傀儡王

紫の方、遙か極東の地からお越しいただきました特別ゲスト。趣味は盆栽と切腹という、やんごとなきお方でーす。

独特王、新年一般参賀の時のような挨拶。

傀儡王

第1問目はボーナス問題、3択です。問題。

従者

『エジプトはギザの3大ピラミッドと言えば、カフラー王、メンカウラー王と、あと一つは誰のもの？ 1番クフ王、2番ツタンカーメン王、3番王貞治』

傀儡王

さあ、一斉にパネルをどうぞ！

一斉にあがらないパネル。

王様王が「1番」を出したのをみて對抗王は「2番」を。

それをうけて中道王が「1・5番」を。

それとまったく関係なく独特王はマイペースに「89番」を出す。

傀儡王 さあ、答えが割れました。正解は・・・1番、クフ王です。赤の方お見事。さあ、赤の方、どの土地に飛び込みますか。

王様王 アイルランド。

傀儡王 アイルランドに赤が飛び込む。さあ、まずは背後を固める作戦か。次の問題です。

従者 『ウルトラセブン第3話「湖の秘密」に登場する、ピット星人のペットという設定の宇宙怪獣は何という名前でしょう』

對抗王、王様王より一瞬早く挙手。

傀儡王 青の方。

對抗王 エレキング。

傀儡王 お見事、正解です。怪獣にはお詳しいほうですか。

對抗王 ええ、まあ。

傀儡王 さあ、狙い目はどのパネル。

對抗王 カレー。

傀儡王 カレーに青が飛び込む。さあ、これでイングラント侵攻に向けての布石が打たれた形になったか。次の問題です。

従者 『ウルトラマン第8話「怪獣無法地帯」・第25話「怪彗星ツイフォン」に登場した恐竜型怪獣は』

タッチの差で對抗王が解答権を得る。

傀儡王 青の方。

對抗王 レッドキング。

傀儡王 正解！ お見事です。さあ、狙い目のパネルは、何番。

對抗王 ドーバー。

傀儡王 ドーバーに青が飛び込む。赤の方はここが踏ん張り所だ。次の問題です。

従者 『レゲエの都、ジャマイカの首都といえば』

タッチの差で王様王が解答権を得る。

傀儡王 赤の方。

王様王 キングストーン。

傀儡王 正解。さあ、赤の方。

王様王 ドーバー。

傀儡王 ドーバーが青から赤に変わる。一旦は押し寄せたフランス軍を見事に押し返しました。白と紫の方にも頑張ってほしい。さあ、この問題です。

従者 『せん・・・』

独特王 ピンポーン。

傀儡王 早い！ 紫の方。

独特王 ジプシーキングス。

傀儡王 ピンポン正解です。問題は

従者 『1988年、ファーストアルバム「ジプシーキングス」でデビューした南フランス出身のロックバンドは何というグループでしょう』

傀儡王 ジプシーキングス、その通り。紫の方、どこのパネルに飛び込みますか。

独特王 満州。

傀儡王 それはこの地図にはありません。けど、まあいいでしょう、紫の方が満州に飛び込む。うーん、これに何の意味があるのか。ほとんどというか、まるで大勢に影響がありません。それでは次の問題です。

従者 『せん・・・』

独特王 ピンポーン。

傀儡王 早い！ 紫の方。

独特王 ジプシーキングス。

傀儡王 ピンポン正解です。問題は

従者 『1989年、セカンドアルバム「モザイク」をヒットさせた南フランス出身のロックバンドは何というグループでしょう』

傀儡王 ジプシーキングス、お見事です。さあ、紫の方。

独特王 茶沢村。

傀儡王 どこなんでしょうか、それは。まあいいでしょう。ちゃーざーむらに紫が飛び込む。今日もヨーロッパは平和です。次の問題です。

従者 『「バンボレオ」・「ジヨビジョバ」などのヒット曲で知られる、南フランス出身の・・・』

独特王 ピンポーン。

傀儡王 紫の方。

独特王 ジプシーキングス。

間。

はずれブザー。

傀儡王 おおっと残念。紫の方には10問の間、お立ちいただけます。問題の続きです。

従者 『「バンボレオ」、「ジヨビジョバ」などのヒット曲で知られる、南フランス出身のロックバンドはジプシーキングスですが、「たそがれの銀座」・「涙の操」のヒットで知られる日本のグループは何でしょう』

中道王、解答権を得る。

傀儡王 白の方。

中道王 殿様キングス。

傀儡王 正解です。さあ、白の方、どちらの都市に攻め込みますか？

中道王 パス。

傀儡王 固い。さすが専守防衛、悪く言えば日和見主義の中立国です。さあ、次の問題です。

従者 『主人公遊木リンがローラーヒーローに変身してタコ型宇宙人と戦うタツノコプロ製作のアニメといえば』

解答権は対抗王へ。

傀儡王 青の方。

対抗王 とんでも戦士ムテキング

傀儡王 正解です。さあ、青の方、

対抗王 ドーバー。

傀儡王 ドーバーに青が飛び込む。さあ、赤が押し返すのか、それともこの勢いで青が

従者 一気にいつてしまうのか、次の問題はジェスチャークイズです。

対抗王 これはなんでしょうか。(裸で走り回るジェスチャー)

傀儡王 ストリーキング。

従者 正解です。

傀儡王 (裸で走り回るジェスチャーを解説付きで)

対抗王 さあ、青の方。

傀儡王 ソールズベリー

対抗王 ソールズベリーに青が飛び込む。さあ、赤の方絶体絶命。最後の問題になるの

従者 か、ジェスチャークイズ続いてこの問題です。

対抗王 これはなんでしょうか。(バイキングのジェスチャー)

ライオンキング

はずれブザー。

傀儡王 おおつと残念。ここまで攻めたんですが・・・本当に残念です。赤の方は命拾

従者 い。青の方には10問の間、お立ちいただきます。問題の続きです。

中道王 (バイキングのジェスチャーの続き)

キングコング。

はずれブザー。

傀儡王 おおつとどうしたことか。白の方も10問の間、お立ちいただきます。

従者 (バイキングのジェスチャーの続き)

王様王 バイキング。

傀儡王 正解です。

従者 (バイキングのジェスチャーを解説付きで)

傀儡王 さあ、赤の方。

王様王 カレー。

傀儡王 赤がカレーに飛び込む。ソールズベリーとドーバーが赤に変わる。さあ、赤の方一気に形成逆転。しかも紫の方はあと7問、赤と白の方はあと10問のあいだ、解答権がありません。チャンスです。さあ、問題。

従者 『大都会のヒットで知られる、佐世保出身の』  
王様王 クリスタルキング。

はずれブザー。

傀儡王 ああ、なんということでしょう。もったいない。問題を最後まで聞いてみましょう。

従者 『「大都会」のヒットで知られる佐世保出身のロックバンドはクリスタルキングですが、「たそがれの銀座」・「涙の操」のヒットで知られる日本のグループは何でしょう』

傀儡王 正解は殿様キングスでした。赤の方も10問の間お立ちいただけます。さあ、チャンス、大チャンスです。・・・私にとっての大チャンスです。

傀儡王、その耳にあてた糸電話を外し、その糸をたぐっていく。

傀儡王、その糸の終わりの壁に向かって、短剣を突き立てる。

鮮血が溢れ出す。

傀儡王

(糸電話に) 痛いですが、痛いですが、痛いでしょう。痛くないはずがないですよ。だって痛いように刺してるんだから。(短剣でえぐる) ほら、私、刃物だって扱えるんですよ。もういつまでも子供じゃないんですから。いつまでも教えて貰わなくても、自分で考えて自分でするんだから。そろそろ離してくださいよ、いつまでも耳打ちしてもらわなくても、自分でちゃんとしゃべれるんだから。あなたが思うほどおとなしくもないし、あなたが思うほど従順でもないんです。痛いですが、痛いでしょう。こうするともっと痛いはずですよ。ほら、痛い。もう秋です。実り無き秋です。春には剣を夏には弓を、秋の実りを奪うために、ただ兵を育てたこの年です、飢えるのか、奪うのか。そうなることはあなただっただけでわかっていたはずですよ。本当は、芋を植えたかったです。言い出せなかったけど、本当は芋を植えたかったです。許してはもらえなかったでしょうが、本当は芋を植えたかったです。貧しくていい。とりあえず、お腹いっぱいになる食べ物。お腹がいっぱいなら、たとえ貧しくても、争おうとは思わないから。お腹が空くと、きっと私は弱いから。誰かのものをほしがってしまうから。だから芋を・・・離して下さい。ほら、はやく。離せよ。ほら。

傀儡王、その目に異様な光をたたえたまま、壁をメチャクチャに刺す。

血塗れの傀儡王、糸電話の両端をもって戻ってくる。

傀儡王、自らの口で、自らの耳へと命令する。



傀儡王 次の問題。

従者 『「失地王」「破門王」などの異名をもつ、イングランド史上最も悪名の高い

王といえは誰でしょう』

傀儡王 ジョン王。正解。さあ、私はどこの都市に攻め込みますか？ アンジェ。アン

ジェにオレンジが飛び込む。

傀儡王、中道王を暴力的にはじき飛ばす。

中道王の頭から王冠が落ちる。

傀儡王 さあ、次の問題です。

従者 『「失地王」「破門王」などの異名をもつ』

傀儡王 ジョン王。正解。さあ、私はどこの都市に攻め込みますか？ 京都。京都にオ

レンジが飛び込む。

傀儡王、独特王を暴力的にはじき飛ばす。

独特王の頭から、王冠が落ちる。

従者 『「失地王」「破門王』』

傀儡王 ジョン王。正解。さあ、私はどこの都市に攻め込みますか？ パリ。パリにオ

レンジが飛び込む。

傀儡王、對抗王を暴力的にはじき飛ばす。

對抗王の頭から、王冠が落ちる。

傀儡王、王様王を睨みすえたまま・・・

傀儡王

レンヌにもトゥールにもポアティエにもオレンジが飛び込む。カレーにもドーバーにもソールズベリーにもオレンジが飛び込む。さあ、最後の問題です。『「失地王」「破門王」などの異名を持つ、イングランド史上最も悪名の高い王といえは誰でしょう』ジョン王。正解！！ さあ、ロンドンにオレンジが飛び込む！！

落雷。

叩き付けるような雨音。

音楽。

王様王 戦況はどうだ。どうなっているのだ、ヒューバート？

従者 あまりよくないようです。陛下のご気分は？

王様王 長い間わずらっていた熱病が、ますます重くなってきた。ああ、この胸が、苦しい！

従者 敵軍はドーバーを越え、ここロンドンへ向かって進軍中。我らが居城は包囲さ

れつつあります。

對抗王 ドーバー要塞陥落。守備隊長ペンティアム公、戦死。

中道王 カンタベリーが襲撃されました。第6騎士団壊滅。騎士団長セレロン公、消息不明。

王様王 テムズの橋を落とせ。籠城だ。

独特王 ブライトンが降伏。アーマード伯は投降したもよう。

王様王 リスクの重装騎兵隊はどうした。

従者 クロイドンで敵軍と交戦中です。

王様王 内壁の城門を閉じる。弓矢隊は南門内壁に配置。

中道王 敵軍、クロイドンを突破。リスク公、消息不明。

對抗王 敵軍、テムズ南岸に集結、第5騎士団と衝突。

独特王 第5騎士団、アスロン公が陣頭指揮を取ります。

中道王 形勢、我が方に不利。押されています。前線を維持できません。

王様王 援軍を出せ。

独特王 駄目です、間に合いません。

中道王 防衛線を突破されました。アスロン公、消息不明。

王様王 ……北門を開け。市民を避難させる。

従者 ……すでに城下には市民の姿はなく、皆、我先にと脱出した様子。

王様王 そうか……それならよい。

従者 陛下？

王様王 構わん。彼らは王ではないのだ。矜持はなくとも、春に蒔く粃とそれを耕す鋤

さえあれば、誰の下でも生きていけよう。さあ……剣を。

従者 陛下。

王様王 お前ももう下がれ。今まで、本当にご苦労だった。

中道王 敵軍、外壁を突破。

對抗王 南門から火の手が上がりました。

独特王 敵兵が城門に殺到してきます。

従者、王様王の元に剣と鋤を持ってくる。

地響き。

時が、一斉に震えはじめる。

中道王 敵軍、城門を突破！！

王様王、その右手に剣、左手に鋤を持ち、ただ逡巡する。

従者 お選び下さい、陛下。私には……申し上げたいことはたくさんありますが、

あなたには何も申し上げられません。

ピクニックにいきましょう。あなたが王様でなくても、私は構わない。構わないんです。へたくそですが、サンドイツもつくります。陛下の好きなチーズと

ハムもたくさん入れて。私の田舎なら、今ならくしゃみがとまらなくなるぐらい花が咲いています。どこにでも咲いてるような花ですが、それでも私が一番好きな花です。だからこそ、私が一番好きな花です。薔薇の誇りも、水仙の孤独さもなく、ただやたらに咲くしか能がない、やかましくさわがしい花ですが、きつと陛下のお気に召すかと思えます。

・・・お逃げ下さい、陛下！！

王様王、逡巡する。

おそらくはすべての「決断者」がそうであるように。

激しい激突音。

城門が砕け散る音。

関の声をあげ、突入する敵兵。

音楽。

王様王、静かに頷き、その言葉に微笑みかえす。

そして、振り下ろされたのは・・・右手。

斬りつけられ、倒れ伏す従者。

その姿を、不審の表情で見つめる王様王。

自らの手元の血塗られた剣に気付く。

王様王の手から、剣が落ちる。

かつて従者がそうしたように、王様王は従者を元に戻そうとする。

王様王、従者を壁に立てかけたり、椅子に座らせたりと無理矢理に立ち上がらせようとする。

しかし力の抜けたそれは、どうしても元通りにならない。

王様王を取り囲む人影。

それはいつか見た冬の日の風景のように。

(シーン3終了)

4 冬

三日月の、弱々しい月明かり。  
冬の冷たい空気があたりを包んでいる。  
それは、凡庸な冬の夜の風景である。  
王をやや遠巻きに取り囲む、4人の人影。

人 1 (大きく)・・・何を？。

王様王、従者の亡骸に、静かに布をかぶせる。

人 3 墓・・・ですか？

静かに時間が流れる。

人 4 墓でしょう。

僅かに風が吹いたような気がする。

人 2 お悔やみを。

王様王、取り囲む人影を強く睨みかえず。

王様王 悔やみはせぬ。・・・春、夏、そして冬。春、夏、そして冬。その冬の凍てついた大地の下も、春には芽吹くだろう種が静かに眠り、焼き払われたはずの枯野にも、静かに若葉が芽生えるように、この冬の夜の帳は、春には明けることを約束された、つかの間の眠りに過ぎぬ。

種を蒔こう。そしてもう一度秋を迎えよう。暖かくならぬ春を、夏の長雨を、秋のつむじ風を憂いながら、ただひたすらに、祈るように秋を待とう。

暑い夏には麦もいいだろう。手間はかかるが米もいい。心配ならば豆も植えよう。腹を満たすなら芋もいい。やがてくる秋の実りのために、今はこの凍てついた大地と戦おう。

・・・まずは、弔いの鐘を。そして・・・

人 1 そして・・・何を？

静かな間。

王様王 ・・・花を。

音楽。

王、ひたすらに大地に鍬を振り下ろす。

斬りかかる人々を、ただひたすらにその手の鍬ではじき返しながら。

その剣と鍬のぶつかり合う音は、鳴り響く吊いの鐘のように。

その繰り返しの中、実りの秋を信じる力強さに満ちて。

(幕)

脚本執筆に際し、以下の文献を参考にしました。

「ジョン王」

ウィリアム・シェークスピア

小田島雄司・訳

白水社刊